

平成 29 年 3 月 26 日(日)

(第 40 号)

ワンネット通信
NPO ワンストップリーガルネット

発 信 者 理事長 大内田 治男
E-mail ouchidaoffice@kce.biglobe.ne.jp
電 話 0942-39-0926 FAX 0942-31-5336

「固形培地耕に期待する」

農学博士 藤枝 國光
(ワンネット賛助会員)

1955 年頃から農業の複合経営の 1 部門として普及した施設園芸は、その後專業的・主業的経営に発展し、その経営体数は 27 万にも達した。しかし、経営者の高齢化に伴うリタイアと価格低迷による経営悪化、輸入対策に具体的な戦略を見出せない中で後継者が育たず、担い手の減少が続いている。農林業センサス 2010 では野菜類が 132,384、花卉・花木が 32,855、果樹類が 18,009 で、経営体数は 18 万余りに低減している。国内における施設園芸の衰退は、消費者や実需者のニーズに適う園芸作物の周年的供給を困難にするばかりでなく、我が国の農業基盤に劣化をもたらす重大事である。施設園芸の継続的発展に衆智を集めていただきたい。

施設園芸の規模拡大や企業的経営の展開には、施設の大型化と軽労・快適化のための装置化を欠かせない。それに伴う償却費の増加を賄い、そして労力を有効利用するために周年生産技術を組み立てねばならない。また、肥料要素の環境負荷が懸念されているが、施設栽培では 1 作当りの窒素収支が 30 kg/10 a を超えるものも少なくなく、現行の肥培法で周年的栽培が繰り返されると、濃度障害や硝酸性窒素による地下水汚染が危惧される。臭化メチール規制による土壌病害対策も絡め、肥培法の抜本的な見直しが必要である。

固形培地耕は地力のない固形培地で行われる養液栽培で、培養液で育てるので塩類の濃度障害を回避しやすく、閉鎖方式にすることで肥料要素による環境負荷も削減できる。しかし、培地の選択、培養液の組成管理、自家中毒物質の除去、病原菌対策などが懸案となり、低コスト・安定生産のための国産技術の開発には、概して消極的であった。九州電力(株)総合研究所では、パブリカの導入試験を契機に 1997 年からこの課題に取り組んできた。細粒ボラや杉バークなど、水分特性の異なる培地も給液方法を工夫することで活用できるし、培養液のリアルタイム診断が容易なうえに、養水分制御の自由度が高いので、多様な種類・品種に好適条件を提供できることも確かめられている。果菜類や切り花花卉では周年生産・生産性向上・環境低負荷を実現する最も現実的な栽培法であるとの認識を深めている。消費者・実需者ニーズに適う高品質・安定生産へ向け、国産技術の開発が適応品種の育成を含めて、加速されることを願っている。

固形培地耕への転換を普及させるには、耐候性ハウスと付帯装置のコストダウンが前提となる。熊本県農業研究センターでは、骨材に高張力鋼角パイプを使用し、基礎は引抜き強度の高いスパイラル杭を用いて耐風性を強め、その一方で軒高を 2.5m にして側壁・妻面・谷間部分の換気面積を広くし、高温期も利用しやすい低コストハウスの開発が進んでいる。大規模経営には、4m を超える高軒高の輸入施設が導入されているが、それぞれの作物で作型を進化させれば、例えばパプリカでは更新剪定を組み込んだ長期作型を選択すれば、熊本型ハウスのような低コスト・耐風性を優先した施設構造が望ましい。我が国の気候・風土の中で、大規模経営のための施設と作型の研究開発を平行して行うことが、施設園芸の継続的発展に欠かせない思いを強くしている。



キュウリ Uターン仕立て



パプリカ更新剪定

●入会者の紹介

3月1日付で行政書士の佐藤賢太さん、4月1日付で不動産業者、平山重登さんがワンネット正会員として入会されました。会員一同、熱烈歓迎。よろしくお願ひします。4月1日現在の会員数は39人です。早速お二人から入会のごあいさつをいただいておりますので、ご紹介します。

佐藤 賢太さん

この度、入会のご承認をいただきました、行政書士の佐藤賢太です。

平成 26 年 4 月に行政書士登録をし、もうすぐ 3 年が過ぎようとしております。ご縁あって杉野琢巳先生から、ワンネットのご紹介を受け入会の運びとなりました。

実家が同族で会社を経営していたため、事業承継で大変な思いをいたしました。まさに争族でした。この経験から、家族・親族が揉めることなく、相続や事業の承継問題を解決するためには、予防でしかないとの考えに至りました。将来の起こり得るかもしれない紛争を想定した相続・事業承継のアドバイスを提案していきたいと思っております。また、ファイナンシャルプランナー 2 級を取得していますので、税務対策を絡めた予防法務としての相続対策、ライフプランの提案も致しております。

いま力を入れているのは、民事信託（家族信託）を活用した、老後の資産管理（後見制度に頼らない、家族での資産管理）、相続・事業承継対策です。家族間で信託を設定することで、高齢により判断が衰えた時から相続時の遺産分割、さらに 2 次相続の問題等を 1 度に解決することができます。跡継ぎの長男夫婦に子供ができなかったときに、次男の子供（孫）に 2 次相続時に代々の土地を承継させるなど、直系血族への資産承継を可能にしております。これから、ご指導のほど、よろしく申し上げます。

行政書士 佐藤 賢太

〒812-0897 福岡県福岡市博多区半道橋 1 丁目 13 番 17 号

TEL 092 - 413-5332 FAX 092-510-0022 携帯 090-2580-5837

Email : miyuki39sato@gmail.com

平山 重登さん

この度、入会させて頂きました平山重登です。

私は大内田治男先生と久留米ライオンズクラブ在籍中に業務のなかで知り合い、ワンストップリーガルネットを紹介され、数回会合に出席させて頂きました。在住外国人によるパネルディスカッション、農業問題等広い分野での勉強、そして生の声を聞かせて頂きました。

私は約 50 年前に現福岡県農業大学校を卒業し、ヤンマー農機、昭和建設、西日本産業を経て 30 年前に不動産業を創業して現在に至っております。

今後、今までの経験を生かし、幾ばくか人様のお役にたてればと、そして多方面の見聞を広げたいと考えております。

椿の町<<くさの>>に住んでおります。田舎の町づくり等々も勉強いたしたく参加させて頂きました。ご指導のほど、宜しくお願い致します。

不動産業 平山 重登

〒839-0837 福岡県久留米市草野町矢作 5 3 4-1

TEL 0942-47-4488

Email hirayama0412@ybb.ne.jp

大内田理事長、ご受賞おめでとうございます

監事 杉野 琢美

さまざまな分野でまちづくりに貢献した人を称える「久留米市ふるさと市民賞」の表彰式が2月9日行われました。そのお披露目が「広報くるめ」(3月1日号)に掲載され、21人の受賞者を代表する形でワンネット理事長大内田治男さんが紹介されたのはご承知のとおりです。長年、お付き合いをいただいている者として嬉しい限りで、ひと言お祝い申し上げます。

「ふるさと市民賞」ご受賞、おめでとうございます。「行政運営の改善」、すなわち行政相談委員としての業績が大きいからだと思います。

これは十数年前、大内田相談委員にお願いした一実例です。当時の久留米公証役場は二階部分にあり、階段が長く、幅も狭く、遺言書を作成するために訪れる高齢者にとっては、大変不便でした。駐車場も離れたところにあり、高齢者や障害者など弱者にやさしいバリアフリーが必要だと思い、その悩みを大内田さんに相談しました。その結果、交通の便もよく、車椅子でも出入りができる素敵な今の公証役場に移転されました。

大内田相談委員が取り扱った住民のための行政サービス改善は数多くあるとお聞きしますが、久留米公証役場移転問題の解決も、大内田行政相談委員のひとつの業績だと感慨深いものです。

介護施設「ケアタウン鳥飼」を見学してきました —「成年後見センターみまもり処」グループ活動報告—

理事 鹿子生 盈代

去る3月17日(金)、ワンネット会員5人(立山由喜子、中村妙子、橋口紀代子、山浦正敦、鹿子生盈代)が、久留米市梅満町の「ケアタウン鳥飼」を訪ねました。いちよの杜グループが久留米市内で運営する6事業所の中の一つである本施設は、平成25年の開設です。

コーヒーをいただきながらまず当施設の管理者・梅野隆さんから説明を受け質疑応答のあと、住宅型有料老人ホーム、複合型サービス事業等の現場を見学し約2時間の滞在でした。その間、ワンネットのリーフレットや相談会のチラシなどで活動を紹介、ご利用を勧めてきました。今回の施設見学により、私たちが分かったこと、感じたことを報告します。

○介護、医療、生活の場を総合的に提供する新しい形のサービスを目指す施設

住宅型有料老人ホームを直営し、複合型サービスを提供。看護師が常駐するほか、敷地の入口にある在宅支援診療所「ファミリークリニック陽なた」や、調剤薬局タイヨードーと提携。

○複合型サービスとは、小規模多機能型と訪問看護を一体的に提供

小規模多機能型（デーサービス、訪問介護、宿泊）居宅介護に、医療や看護のケアが加わった形態。介護保険上「看護小規模多機能型居宅介護」という。要介護 1 から 5 が対象で要支援では利用不可。

○複合型サービスを受ける料金は定額制

要介護度により料金は異なるが、同じ定額制である小規模多機能型に比べると、月額 2 万円ほどアップする。住宅型有料老人ホームの入居者 30 人のうち 22 人の方が利用中。

○前記の総費用のシュミレーション

入居一時金なし。居室は A, B, C 3 タイプで、最低：要介護 1 の A タイプ 128, 772 円、最高：要介護 5 の C タイプ 179, 045 円。但し、居室の電気代や、おむつ代、医療費、小遣い等は別途必要。

○A、B タイプの居室及び共用部分を見学（居室 C タイプは満室で見学不可）

A タイプはトイレ、風呂なし、B タイプはトイレ付き、C タイプはトイレ、風呂付き。部屋の広さは、A—13 m²~C—25 m²。

○見学を終えてのメンバーの感想

・管理者の対応が懇切丁寧　・利用する際の具体的なことがわかってよかった　・新しい事業形態を知ることができた　・契約前に体験入居をした方がよい　・居室は、家具を入れると狭いと感じる、などでした。

ちなみに、現在ワンネットが法人として任意後見契約中の K 夫妻は、夫が要介護、妻が要支援です。二人とも小規模多機能型を利用中ですが、将来複合型サービスが必要となるかもしれません。

●平成 29 年 3 月の無料相談会

3 月 8 日（水）10 時 30 分から 15 時までを相談会、その後引き続き 1 時間の反省会を市民活動サポートセンター「みんくる」の会議室で開催しました。

相談員としては、久留米公証役場の村上公証人と 21 人のワンネット会員（大内田、後

藤、中村（妙）、橋口、鹿子生、松枝、山浦、森、藤島、佐藤、久保田、寺田、古賀（信）、宮地、有馬、古賀（隆）、田中、栗林、森部、杉野、平木）のみなさんでした。特に3月から入会の佐藤賢太会員は、フィナンシャルプランナーを活かし、多くの相談に対応されていました。

相談に訪れた人は26人で相談件数は26件、相談内容は遺言・相続9件、成年後見1件、離婚4件、年金1件とその他11件（不動産売買3件、金銭問題2件、借家問題2件、保証人、決算関係、境界トラブル、建物の解体）。その中で継続しての相談は4件でした。

次回の相談会は4月12日（水）。受付担当は松枝会員と坂井会員です。

3月の公証業務相談は3月15日（水）で、田村公証人と森会員。相談は「遺言」の1件でした。4月の公証業務相談は4月19日（水）。村上公証人と松枝会員の担当となっています。よろしくお願ひします。

●寄付のご報告

このほど、ワンネットへの寄付がありましたのでご報告します。ありがとうございました。（敬称略）

受取日	お名前	金額	内訳
平成 29 年 3 月 8 日	寺田 辰男	18,000 円	業務受託
平成 29 年 3 月 8 日	鹿子生 盈代	15,000 円	業務受託

●青年農業者、ドローン操縦習得に挑戦

うきは市吉井町の若い農業者、山下昌邦さん（29歳）は「ドローン（小型無人飛行機）の操縦資格検定に申し込んだ」といいます。「どういうことですか」・・・先日、山下さんから次のような興味深い話を聞きました。

山下さんは、ワンネット「農業セミナー」の参加者で、吉井町で認定農業者のお父さんと米、大豆、麦の土地利用型農業に取り組む若い後継者。水田の維持・管理、おいしい米づくりに汗を流し、地元の「受け皿」になるようがんばっています。また米の消費拡大のため、地元の米を使ってもらっている久留米の飲食店で勉強方々働いています。

ドローン操縦習得のきっかけは、農作物の消毒にドローンを使いたいことから。タンクを背負って農薬をまくのは負担が重く、特に高齢者にとっては重労働。費用が掛かっても背に腹は代えられないとヘリ業者や大規模農家に委託するところが増え、これからドローンは有力な消毒手段になるのは目に見えています。この地域にもすでに、鹿児島

の業者が予約を取り、わざわざ当地まで出向いて消毒を請け負っている話もあるといいます。地元の者でお手伝いができないか。費用も軽減できそうだし、何より気軽に声をかけてもらえる者が地元にいるのはいいことだ、と山下さんは思い立ったのです。

平成 27 年、首相官邸の屋上でドローンが見つかった事件をきっかけに脚光を浴びるようになり、改正航空法が施行（飛行制限や罰則規定）され、事故と活躍の両面の報道が目を引きまします。農業散布にドローンが本格的に使用されるようになるのはこれから。農機大手が農業用ドローン市場に参入とも伝えられています。

山下さんが申し込んだ「ドローン検定」は民間で行うもので、5 日間の合宿訓練では操縦技術の実習が中心のようです。がんばって安全な操縦技術などを学び、できるだけ早く自分の農業に採り入れて、消毒作業でお困りの方のお役に立てるようになりたいと山下さんは目を輝かせます。

ワンネットと身近な関係にある若い農業後継者・山下さんのこのような活動に注目していきたいと思っています。

（栗林 武敏）

●活用してください。「みんくる」の専用ロッカー

ワンネットの活動拠点は、市民活動サポートセンター「みんくる」です。「暮らしの無料相談会」、研修会、理事会・総会など、ほとんど「みんくる」を会場にしています。

ワンネットは、その「みんくる」事務所の一角にあるロッカーとメールボックスを借り上げています。専用のロッカー（年間使用料 3600 円）は 7 番（暗証番号 5030）。相談カード、筆記用具、パンフレットなどを入れています。また、専用メールボックス（無料）は 8 番。気軽に活用してください。使用に当たっては「整理整頓」。共有物として、みんな気持ちよく使いましょう。

また、「みんくる」には印刷機、ポスタープリンターなど安い値段で使用できます。

次回「ワンネット通信」は 4 月 23 日（日）の発行を予定しています。
みなさまからのお気軽なご寄稿、ご意見・ご感想をお待ちしております。